

原子力規制委員会
平成28年度行政事業レビューに係る
第3回外部有識者会合

原子力規制庁

原子力規制委員会

平成28年度行政事業レビューに係る第3回外部有識者会合 議事録

1. 日時

平成28年7月25日（月）14：00～14：49

2. 場所

原子力規制委員会 会議室C

3. 出席者

浅羽 隆史 成蹊大学法学部教授

小笠原 直 監査法人アヴァンティア法人代表 代表社員

田淵 雪子 行政経営コンサルタント

事務局

廣木 雅史 原子力規制庁長官官房参事官（会計担当）

折橋 正敬 原子力規制庁長官官房参事官（会計担当）付経理調査官

中崎 尚俊 原子力規制庁長官官房参事官（会計担当）付参事官補佐

4. 配付資料

資料1 外部有識者点検対象事業に係る所見（案）について

資料2 今後の予定について

参考1-1 原子力安全規制情報広聴・広報事業委託費の概要

参考1-2 平成28年度行政事業レビューシート（原子力安全規制情報広聴・広報事業委託費）

参考2-1 使用済燃料等の貯蔵・輸送分野の規制高度化研究の概要

参考2-2 平成28年度行政事業レビューシート（使用済燃料等の貯蔵・輸送分野の規制高度化研究）

参考3-1 核燃料サイクル分野の規制高度化研究事業の概要

参考3-2 平成28年度行政事業レビューシート（核燃料サイクル分野の規制高度化研究事業）

- 参考 4 - 1 東京電力福島第一原子力発電所事故の分析・評価事業の概要
- 参考 4 - 2 平成28年度行政事業レビューシート（東京電力福島第一原子力発電所事故の分析・評価事業）
- 参考 4 - 3 東京電力福島第一原子力発電所事故の分析・評価事業の概要（補足資料）
- 参考 5 - 1 発電炉シビアアクシデント安全設計審査規制高度化研究事業の概要
- 参考 5 - 2 平成28年度行政事業レビューシート（発電炉シビアアクシデント安全設計審査規制高度化研究事業）
- 参考 6 - 1 技術基盤分野の規制高度化研究事業の概要
- 参考 6 - 2 平成28年度行政事業レビューシート（技術基盤分野の規制高度化研究事業）
- 参考 7 - 1 原子炉施設等の規制基準整備事業の概要
- 参考 7 - 2 平成28年度行政事業レビューシート（原子炉施設等の規制基準整備事業）
- 参考 8 - 1 発電炉設計審査分野の規制研究事業の概要
- 参考 8 - 2 平成28年度行政事業レビューシート（発電炉設計審査分野の規制研究事業）
- 参考 9 - 1 原子力防災分野の規制調査研究事業の概要
- 参考 9 - 2 平成28年度行政事業レビューシート（原子力防災分野の規制調査研究事業）
- 参考10- 1 軽水炉の事故時熱流動調査委託費の概要
- 参考10- 2 平成28年度行政事業レビューシート（軽水炉の事故時熱流動調査委託費）
- 参考11- 1 原子力施設等安全解析事業の概要
- 参考11- 2 平成28年度行政事業レビューシート（原子力施設等安全解析事業）
- 参考12- 1 原子力安全情報に係る基盤整備・分析評価事業の概要
- 参考12- 2 平成28年度行政事業レビューシート（原子力安全情報に係る基盤整備・分析評価事業）
- 参考12- 3 原子力安全情報に係る基盤整備・分析評価事業の概要（補足資料）

5. 議事録

○廣木参事官 それでは、定刻となりましたので、ただいまより平成28年度原子力規制委員会行政事業レビューに係る第3回外部有識者会合を開催いたします。

本日、司会進行を務めさせていただきます長官官房会計担当参事官の廣木でございます。

それでは、まず、配付資料の確認を事務局よりお願いいたします。

○中崎補佐 会計参事官付の中崎と申します。配付資料の確認をさせていただきます。

お手元に配付資料一覧がございまして、次に議事次第がございます。その次に資料1、外部有識者点検対象事業に係る所見（案）について。それから資料2、今後の予定についてと御準備させていただいてございます。

その他、参考資料として、前回の第2回外部有識者会合でお配りした各事業の概要、それからレビューシート12事業分を用意させていただいております。

過不足等がございましたら、事務局までお申しつけください。

○廣木参事官 それでは、特によろしいでしょうか。

それでは、議題に入りたいと思います。

では、有識者点検対象の12事業につきまして、前回会合での質疑内容を踏まえて、事務局にて有識者所見（案）を作成いたしました。本日は、事業ごとに所見（案）を読み上げさせていただいた上で、先生方からコメントをいただければ幸いです。

それでは、資料1の事業番号002について説明をお願いします。

○中崎補佐 では資料1、事業番号002、事業名称、原子力安全規制情報広聴・広報事業委託費につきまして、御説明をさせていただきます。前回の質疑応答の際、先生方から御発言いただいたものをベースに所見をまとめさせていただいてございます。

一つ目でございますが、平成25年度行政事業レビューでの指摘を踏まえ、平成26年度では規制庁の情報発信の信頼度に係るアウトカムが設定されていたと。しかしながら、今回の平成27年度ではその指標が消えてしまっていると。改善の有無を判断するためには同じ指標で評価していくべきであるという御指摘。

それから、二つ目が、随契している部分については、他の業者の参入を促す策を講じるべきであると。

三つ目で、総合評価落札方式を採った場合、落札できなかった業者に対して、企画・価格面のどのような点が不足していたのかを説明をするなど、今後の企画・価格面の競争を促していく取組が重要であるという御指摘をいただきました。

こうした御所見の案につきまして、先生方からコメントをいただければと思います。

○廣木参事官 それでは、ただいまの説明に対しましてコメント等がございましたら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

田渕委員、お願ひします。

○田渕委員 案で記されている文言は、あまりにもストレート過ぎるといひますか、結局何を所見として述べたいのかというのがこれではわかりにくいので、例えば、規制庁、規制委員会からの情報の信頼を回復することがこの事業のアウトカムだということをもまず述べて、平成25年度の行政事業レビューでの指摘を踏まえ、平成26年度では、「原子力規制庁が発信する情報の信頼度」がアウトカム指標として設定されていたが、平成27年度では設定されていないと。そういうコメントがあつて、信頼度を継続的に把握し、改善につなげるべきであると。

要するに、同じ指標で評価すべきということではなくて、継続的に把握して、それによつてどこを改善すべきかが見えてくるので、しっかりデータを把握して、改善につなげていくべきであるという形にさせていただければと思ひます。

○廣木参事官 ありがとうございます。

そのほか、何か御意見ございますでしょうか。

○中崎補佐 ありがとうございます。それでは、先ほど田渕先生からいただいたコメントの部分を反映させていただきまして、また細かい文言のところは調整させていただきます。ありがとうございます。

○廣木参事官 ありがとうございます。

そのほか、何かございますか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、今御指摘のいただいた分を修正いたしまして、コメントで所見を修正するというにしたいと思つております。

それでは、引き続きまして、資料2です。事業番号012につきまして、説明をお願ひしたいと思ひます。

待つてください。入れかわりですね。それでは担当課が入れかわりますので、少々お待ちください。

○中崎補佐 それでは続きまして、事業番号012、事業名称、使用済燃料等の貯蔵・輸送分野の規制高度化研究につきまして、御説明をいたします。

所見でございますが、事業単位整理票におきまして、掲載順に関わらず、メインとサブという施策の設定の仕方でございますが、「再掲」とすべきではないだろうとかと。本事業の成果は、1F事故にも寄与するものであり、レビューシートにおける「施策」欄には東京電力の1Fの廃炉に向けた取組の監視等もしっかりと加えるべきであると。それから、一者応札が多い点についてはしっかりと改善するという、この2点御指摘かと思っておりますので、所見案として記載させていただきました。

以上でございます。

○廣木参事官 それでは、ただいまの説明に対しまして、何か委員のほうからコメントがございましたら。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 ここに記載されている形ではなくて、本来ここで申し上げたいのは、政策体系上の位置づけを明確にした上でレビューを実施すべきだという点なんですね。書き順としては、本事業の成果はというところから入って、施策3の取組みの監視等も加え、政策体系上の位置づけを明確にした上でレビューを実施すべきであると。

にサブの施策を「再掲」とすべきというのは、入れても入れなくてもいいとは思いますが、すけれども。

あと、1Fというのは、皆さんはおわかりだと思いますが、普通は通じない。これはきちんと福島第一という形で記載されたほうがよろしいかと思えます。

○廣木参事官 では、ただいまの説明に対して事務局からコメントがあれば。

○中崎補佐 ありがとうございます。本事業の成果はしっかりと施策評価上の1Fの配慮に向けた取組の監視等というのをしっかりと明確にした上で、しっかりと政策体系の位置づけを明確にして行政事業レビューを行うという旨、それから1Fの話でございます。了解いたしました。また、細かいところは調整させていただければと思います。

○廣木参事官 ありがとうございます。

担当から、何か特にコメントはございますでしょうか。

○内田安全技術管理官（核燃料廃棄物担当） 特にコメントはございません。

○廣木参事官 ありがとうございます。

それでは、ほかに何かこの所見（案）に対して、何かコメントがございましたら。

小笠原委員、お願いします。

○小笠原委員 前回はこの不用率については、80%超なので、特に大きいというわけでは

ないからということで、バーになっていたと思うんですが、ただ、このテーマの後のいろいろな事案を見ると、必ずしも80%だからといって、不用率が低いというような判断をされていないようなケースもあったかと思いますが、その辺、何か根拠があれば、お示しいただきたいですし、もしなければ、やっぱり20%というのは結構大きいと思いますので、私は何かやはりそれなりにきちんとまとめたほうがよろしいのかなというふうには思いました。

○中崎補佐 先生が御指摘のとおり、不用率が何%であれば大きいのか小さいのかというのは、必ずしも一律な基準があるわけではないというのが現状でございます。したがって、今までの執行率の推移の中で、どれだけ改善しているかといったところのある種の主観的なところが入っている部分があるかと思いますが、その20%を超えるというところが、一般的には大きいのではないかという御指摘も踏まえつつ、ここの辺りをどう評価していくのかというのが、原課と相談をさせていただければと思います。

○廣木参事官 それでは、浅羽委員お願いします。

○浅羽委員 今の点なんですけれども、せめて引き続き執行率の向上、あるいは予算計上の精査に努めたいとか、何かそんなような文言をもし入れられるようでしたら、それでお願いできればなと思います。

○廣木参事官 ありがとうございます。

○中崎補佐 承知しました。原課のほうは特に今の御指摘について、どうでしょうか。

○内田安全技術管理官（核燃料廃棄物担当） そうですね。不用率の減少に極力努めるようにさせていただきたいと思います。

○廣木参事官 ありがとうございます。

では、そういう趣旨で修正させていただければというふうに考えております。

そのほか、何かございませんでしょうか。

特にないようでしたらば、この事業番号012、使用済燃料等の貯蔵・輸送分野の規制高度化研究につきましての所見は、また今の御指摘を踏まえて修正をさせていただき確定させたいというふうに考えております。どうもありがとうございます。

それでは、次の事業番号024に移りたいと思います。それでは事業番号024について説明をお願いします。

○中崎補佐 事業番号024、事業名称、核燃料サイクル分野の規制高度化研究事業でございます。

所見（案）でございますが、単位コストで行政レビューシート上の単位コストにおいて、分母である報告書件数の中に、学会報告、それから、論文などの複数のものが含まれていると。何の単位コストを表しているのかがわからないため、分母の種類を一つにするなど工夫をすべきではないかという御指摘であったかと思えます。

こちらについて、御意見をいただければと思います。

○廣木参事官 それでは、ただいまの説明に対しまして何かコメント等がございましたら、お願いしたいと思えます。

浅羽委員、お願いします。

○浅羽委員 非常に細かいことなんですけれども、分母の種類一つにするなど、「など」があるからいいとは思いますが、分母の種類を一つにするというのが趣旨ではなくて、わかりやすくすることなので、分母の種類を一つにする、あるいは区分して示すとか、何かそんなようなことをつけ加えたらと思うんですが、いかがでしょうか。

○中崎補佐 承知しました。学会報告、論文といったような幾つかある区分というのをしっかりと丁寧という御指示でございますか。

承知しました。では、それがわかるようにしっかり丁寧に書きたいと思えます。

原課のほうは特によろしいですか。

○内田安全技術管理官（核燃料廃棄物担当） そのとおりだと思いますので、指標をより明確にして、学会報告は別にするならするで、二つの指標をお示しするような形にしたいと思えます。

○廣木参事官 ありがとうございます。

そのほか、何かコメント等がございましたら、お願いしたいと思えます。

田渕委員、お願いします。

○田渕委員 案には記載がないんですけれども、適切性の確認について、業務の委託先である原子力開発機構に適切性の確認に関しても委託をしていると。外から見ると、本当に第三者的な観点でチェックがなされているのかというのが、見えにくいところがある。その辺はきっちり表に出して、公平で、かつ客観的な評価がなされているということがわかる説明の仕方をしていく必要があるのではないかというふうに思うので、そういう観点も所見の中に取り入れていただければと思います。

○中崎補佐 今、御指摘いただいたところは行政事業レビューの事業所管部局の自己評価のところ原子力機構への委託のところの適切性というのをしっかりと丁寧に記載するとい

う、そんな御趣旨で。承知しました。

そこはよろしいですか。

○内田安全技術管理官（核燃料廃棄物担当） 承知いたしました。

○廣木参事官 そのほか何かコメント等がございましたら。よろしいでしょうか。

特にないようでしたら、今の御指摘を踏まえて所見を修正させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

それでは、次の事業に移りますので、今度は事業説明者の入れかわりをお願いしたいと思えます。

○中崎補佐 事業番号015、事業名称、東京電力福島第一原子力発電所事故の分析・評価事業の所見（案）でございます。

実施予定の事業に必要な予算を計上しているにも関わらず、執行率が3割という状況は低いと。今後の調査計画を明確にし、今できることにスピード感・緊張感を持って取り組むべきという御指摘であったかと思えます。こちらの所見（案）につきまして御意見をいただければと思えます。

○廣木参事官 委員から何かコメントがございましたら、お願いしたいと思えます。

ただいまの所見（案）の内容でよろしいでしょうか。

お願いします、田淵委員。

○田淵委員 まさにここで示されているように、スピード感と緊張感、これは十二分に皆さん意識して取り組んでいただきたいと思います。

○廣木参事官 ありがとうございます。では、コメントをお願いします。

○小野安全規制管理官（BWR担当） BWR担当管理官の小野でございます。

今、御指摘いただいた内容について鋭意取り組んでいきたいというふうに考えてございます。スピード感といったときに、成果をなるべく早く出したいというのは、我々はその認識でおるわけでございますが、現場の環境によっては、我々の意識、要は最終的な我々の目標を達成するためにはどうしても時間がかかる可能性があります。ただ、その中での我々スピード感をもってやっていきたいというふうに受け止めて対応してまいりたいと思えます。

以上でございます。

○廣木参事官 よろしいでしょうか。

そうしましたら、今の所見及びコメントに基づきまして、所見をまとめたいと思えます。

どうもありがとうございます。

では、が、入れかわりをお願いしたいと思います。

では、続きまして、事業番号025についての説明をお願いします。

○中崎補佐 事業番号025、発電炉シビアアクシデント安全設計審査規制高度化研究事業でございます。

所見（案）でございますが、随意契約をせざるを得ない理由があるのであれば、その理由を明記すべきであると。また、随意契約（公募）については、透明性の観点から落札率を記載すべきという御指摘であったかと思えます。こちらについてコメントをいただければと思えます。

○廣木参事官 それでは、今の説明に対してコメント等がございましたら、お願いします。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 ここでのポイントは要するに透明性の観点、透明性をしっかり確保すべきだということなので、落札率も、随意契約をせざるを得ない理由も、透明性の観点から、こうしたことをしっかり実施すべきというような言い回しにさせていただいたほうがよろしいかと思えます。

○中崎補佐 透明性が大事であるということをもまず述べつつ、随契の理由と、それから随契の公募の部分についてしっかりと記載すべきという旨を記載すると。具体的には、事業所管部局の自己点検のところで競争性の確保とかというようなところで、記載すべき箇所がございますので、例えばそういったところで随意契約の理由、総論的な理由になってしまうかもしれませんが、そこでしっかりと記載するような、そんな形でよろしゅうございますでしょうか。

○田淵委員 透明性だけではなく、競争性、公平性、いろいろな観点がございますので、そうした観点をしっかり踏まえた上でということでございます。

○中崎補佐 承知しました。原課のほうから特にコメントはございますでしょうか。

○廣木参事官 それでは、ありがとうございます。

それでは今のコメントを踏まえまして所見を修正させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

では、次の事業に移りたいと思えます。事業番号028について、所見の説明をお願いします。

○中崎補佐 事業番号028、技術基盤分野の規制高度化研究事業につきましては、質疑の

内容がございましたけれども、特段私ども御意見のような御発言があったという認識がございませんでしたので、引き続き効率的な執行を行うことという所見（案）とさせていただきましたが、この点について、改めてコメント等がございましたらいただければと思います。

○廣木参事官 それでは、ただいまの説明に対しまして、委員のコメントがございましたら、お願いしたいと思います。

田淵委員、、お願いします。

○田淵委員 引き続き効率的な執行を行うとだけ記されているんですが、効率だけではなく、いかに最小のコストで最大の効果が得られるかというところですので、効果的・効率的な執行という形にさせていただいたほうがよろしいかと思います。

○中崎補佐 承知しました。

○廣木参事官 そのほか、コメントとか特にございませんでしょうか。

原課のほうから何かコメントございますか。

よろしいですか。ありがとうございます。

○中崎補佐 今年度から先生方の御氏名を明記することが、ルール上必要になってございますが、この所見は3名連名ということでよろしゅうございますでしょうか。

、失礼しました。

○廣木参事官 それでは、今の所見については引き続き効果的・効率的な執行を行うことで3名の委員の名前を伏した上で修正して確定させたいと思います。

それでは、どうもありがとうございました。

それでは、次の事業に移りたいと思いますので、説明者の入れかわりをお願いします。

それでは、事業番号027の所見について説明をお願いしたいと思います。

○中崎補佐 こちらの事業番号027、原子炉施設等の規制基準整備事業につきましても、先ほどの事業と同様、御発言がなかったと認識してございますので、このように記載させていただきましたが、引き続き、先ほど田淵先生から御意見をいただきましたように、効果的・効率的な執行を行うこと、そのような形にさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○廣木参事官 今の説明に対しまして、コメント等がございましたら、お願いしたいと思います。

小笠原委員、お願いします。

○小笠原委員 これ、1点だけ確認なんですけれども、何か確か民間規格に係る技術評価書の策定件数というところが、何かもう既にあったものをカウントして、27年度に何か誤って記入していたような記憶があるんですけれども、その辺りこういったアウトカム指標というのは、あるいはアウトプット指標というのはやっぱり正確に算定すべきかなというのが前回議論させていただいたときの印象だったんですけれども、その辺りいかがでしょうか。

○廣木参事官 もし、今の点について、担当課のほうからコメントがありましたらお願いしたいんですけれども。

○倉崎技術基盤課長 、具体的にどこの場所か教えていただけますでしょうか。

○小笠原委員 この27年度の1ページ目のアウトプット指標の1番目ですか。民間規格に係る技術評価書の策定件数は2件となっているけれども、もう既に27年度以前にでき上がっていたものを1件に入れていましたという話があったと思うんですけれども。

○倉崎技術基盤課長 いや、そういう説明は前回特にさせていただいていなかったと思いますけれども。当初から予定していたものは1件やったんですが、もう1件予定していた1件は、事情があって先延ばししたものの、新たに出てきた問題についての確認をしたので、それを1件と数えて、結果としては2件同じになったという御説明をさせていただいたつもりだったんですが。

ですから、既にやられたことを加えたのではなくて、当初27年度に計画した2件のうちの1件はそのとおりにやったんですが、2件目のほうが事情があってできなかった分、誤記の問題が生じた評価を行って1件やりましたので、それで2件ということで、結果としては2件変わりませんでしたという御説明をさせていただいたつもりでした。

○小笠原委員 その説明はよくわからなかったんですけど、その話と、この3ページ目の例の不用率が大きい場合、その理由は妥当かといったときに、一部の民間規格における問題により、急遽見直すことによって不用額が発生したという、その関連性というのはどういうことですか。

○倉崎技術基盤課長 当初2件予定していて、その関連の調査をこの経費を使ってやろうとしていたんですが、途中でその問題が生じたために、その調査ができなくなってしまったということで、その分、不用が立ったということでございます。

その結果も踏まえて、28年度からは、前回の御質問の中でも、経費がなくても同じことができるんですねという類の御質問があったと思うんですが、結局、ここは不用を立てて

しまったということもあり、28年度からはこの経費をぐっと縮小して、別の経費で、特に国際的な基準のほうの見直しの数が今後増えてまいりますので、そちらのほうで対応させていただくというような説明をさせていただいたつもりでございました。

○小笠原委員 そうすると、その28年度に繰り越すものがあるので不用額が発生したという解釈ではなくて、というか、僕の認識はこの27年度のカウンターの策定の2件は、うち1件は26年度から繰り越し、本来、26年度でもできたものを27年度でカウントして、で、27年度では、その分だけまた繰り越しができたので、不用額が発生したというふうな認識をしたんですけれども、そこはどういうことですか。

○倉崎技術基盤課長 繰り越したからということではなくて、毎年度といいますか、技術評価をどういうテーマに応じてやっていくかという計画は立てておきまして、ただ、それは何年度に幾つとかというのではなくて、それ以降、何をやるかという計画を立てていまして、確かにおっしゃるとおり、26年度に計画したものが26年度にできずに、27年度にずれ込んだりとか、当初から27年度ぐらいに予定したものが、さらにずれ込んだりということもあるんですけれども、その時々に必要なものの関連の調査を行うということで、予算上は計上させていただいたんですけれども、当初、その先ほど27年度で途中で問題が生じた結果、その関連の調査ができなくなったということで、その分が不用になったということで、毎年その実際にやる分についての調査は行っていくというつもりでいたんですけれども、そういった意味で、27年度分はこれで不用が出てしまいましたので、28年度からはその分の経費をぐっともう圧縮をして、必要最小限の経費で対応していきたいというふうに考えております。

○廣木参事官 小笠原委員、よろしいですか。

○小笠原委員 はい、わかりました。

○廣木参事官 どうもありがとうございます。

そのほか何かコメント等ございましたら、よろしく申し上げます。

特によろしいでしょうか。

じゃあ、特にコメントないようでしたら、所見（案）につきましては、先ほど述べさせていただいたとおり、修正した上で確定させていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

それでは、次の事業に移りたいと思っておりますので、説明者の入れかわりをお願いいたします。

それでは、事業番号029につきまして、所見の説明をお願いします。

○中崎補佐 029番、発電炉設計審査分野の規制研究事業でございます。

所見（案）でございますが、一者応札が多いという点の改善を図るべきという御指摘があったかと思えます。これらについて何かコメントございましたら、お願いします。

○廣木参事官 では、田淵委員、お願いします。

○田淵委員 ここもですね、ほかもそうなんですけれども、一者応札の改善は手段の一つであって、ここで指摘したいのは、入札方法の改善等を図り、競争性・公平性の観点から、効果的・効率的な執行を行うことということですので、書きぶりといいますか、所見の内容に関しては、改めていただきたいと思えます。

あと、一者応札が多いということは、やはり明記したほうがいいと思えますので、一者応札がこれ7割強、33件中22件だったということを出して、競争性・公平性の観点からも入札方法の改善等を図り、効果的・効率的な執行を行うことという形にさせていただくのがよろしいのではないかと思います。

○中崎補佐 承知しました。そうしましたら、遡りますけれども、その前にも012番で一者応札の部分ございました、同じように、承知しました。

○廣木参事官 特にコメントはよろしいですか。

それでは、委員のほうから、ほかに何かコメントございませんでしょうか。

ないようでしたら、今の所見案につきましては、御指摘いただいた修正をいたしまして確定させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

それでは、引き続き、事業番号036の所見案について説明をお願いします。

○中崎補佐 事業番号036番、原子力防災分野の規制調査研究事業でございます。

内作をして執行額を減らすという取組、これは良いことではあるけれども、そのために調査事業に遅れを生じさせることにならないように、内作を行う箇所、外注を行う箇所のバランスをとること。

また、マニュアル・ガイドの策定は「アウトカム」ではなく「アウトプット」であると。防災対応要員の対応力の向上が「アウトカム」であるべきだから、その観点から成果指標を見直すべきであるというような御指摘だったかと思えますので、御意見いただければと思います。

○廣木参事官 田淵委員、お願いします。

○田淵委員 これも言い回しなんですけど、別に内作と外注のバランスをとるべきというの

ではなくて、バランスをとって効果的・効率的執行を行うということなので、どういう形で業務を行っていくべきかということも、しっかり明記していただきたいと思います。

あと、「また」でつながっているんですけども箇条書きに分けて整理をしていただいたほうがよろしいかと思います。

文言も後ほど調整をさせていただきたいと思います。

○中崎補佐 承知しました。

○廣木参事官 そのほか何か御意見等ございますでしょうか。

では、浅羽委員、お願いします。

○浅羽委員 、田淵委員にお聞きしたいんですけども、この趣旨は別に内作をしるというわけでは全くないですね。

○田淵委員 ないです。

○浅羽委員 それは手段の一つということですので、せめて、ここは「良い」ではなく、「悪いことではない」とか、これが良いというふうに言うべきものではないと理解しておりますし、別に外部に発注するなというわけでもなく、それも適宜ベストなやり方をしてくださいということなので、そこは「良い」が強過ぎるかなという、このまとめ方がですね、田淵委員の趣旨と多分違うんだらうなと思いましたので、発言をさせていただきました。

○廣木参事官 では、ただいまの御指摘についてコメントはございますか。よろしいですか。

じゃあ、今の御指摘を踏まえて、また修正して、また具体的な文言につきましては、また詰めさせていただきますけれども、今の御指摘を踏まえた形で進めさせていただきたいと思います。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 随契についての落札率については、これは修正した形で、シート自体が修正されて出てくるんですけども、もしこのままであれば、やはり随契のところは落札率を明記していただきたいと思うんですけども。

○中崎補佐 御指摘は037番の事業でございます。

○田淵委員 036ですね。前の資料の7ページです。

落札率が、随意契約で公募になっておりますので。

○中崎補佐 仕組みとしましては、中間公表でお出ししたものを、まず先生方に御意見を

いただきまして、その後、8月末に、先生方の御所見を踏まえて修正したものを公開するという段取りでございますが、そのタイミングで全部直すという……。

○田渕委員 落札率には入ってくるということですね。

○中崎補佐 はい。

○廣木参事官 ありがとうございます。

そのほかは特によろしいでしょうか。

なければ、事業番号036については、しっかり今の趣旨を踏まえて修正してまいります。特にコメント等ないですか。よろしいですか。

それでは、そういうふうにさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、次の事業に移りたいと思います。

○中崎補佐 事業番号037番、事業名称、軽水炉の事故時熱流動調査委託費でございます。

所見でございますが、委託先が発注した請負の落札率は公表するべきという御意見でございました。

こちらは、全般に通ずるところがございますので、会計課のほうから申し上げますと、先般、第2回のときに申し上げましたように、JAEAを初め関連の委託機関には、しっかりとこういう数字を公開するよというということで、文章を发出させていただいている手前もでございますので、今申し上げたように、8月に修正したものをお出しするタイミングで、しっかりと全部入った形で公開されるように、この事業だけでなく、ほかにもあるかもしれませんので、つまびらかに確認をしていきたいというふうに思います。

○廣木参事官 それでは、ただいまの説明に対しまして、コメント等ございましたら、お願いしたいと思います。

田渕委員、お願いします。

○田渕委員 そうしますと、このコメントは、このコメントではなくなる形ですか。

○中崎補佐 いえ、今は中間公表しているものを、まさに先生こういう御指摘をいただきました。これはある種の短所みたいなものにして、それで最終公表の段階で全てきれいにするというふうな、そんな形、流れで進めさせていただければと思っております。

○田渕委員 もし、コメント、所見として記されるのであれば、公表するべきだけではなく、透明性の確保等々、そういった観点をしっかり明記させていただきたいと思います。

○中崎補佐 承知しました。

○廣木参事官 そのほか何かコメント等ございませんでしょうか。

特によろしいでしょうか。

そうしましたら、今の御指摘を踏まえまして、所見（案）を修正させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

それでは、次の事業に移りたいと思えますので、お願いします。

それでは続きまして、事業番号、今度は030ですね。それでは、説明をお願いします。

○中崎補佐 事業番号030番、事業名称、原子力施設等安全解析事業でございます。

所見の案でございますが、執行率が低くても成果がある程度出ているならば、予算額を減らしても良いのではないかと。

それから、成果指標の実績と執行率の関係がわかりにくいと。また、事業者から申請があったものに対する対応実績は、目標が立てられない年が出てくる可能性があるため、アウトカムの成果指標に定めるべきではないといった御意見につきまして、コメントを頂戴できればと思えます。

お願いします。

○小笠原委員 この一つ目のコメントに付記していただきたいんですけども、この単位当たりコストの議論をさせていただいたと思えますので、これが1件当たり300万、200万から、突然3,500万になっているというところから考えても、そういった少し非現実的な数字からしても、こういう予算額について減額を検討してもよろしいのではないかとということを加えさせていただければと思えます。

○中崎補佐 承知しました。

お願いします。

○田渕委員 2点目なんですけれども、目標が立てられない年が出てくる可能性があるのではなくて、目標を立てられないんですよね。ですので、対応実績が規制委員会としての目標設定ができないことから、その成果指標としては適切とは言えないというコメントにさせていただいたほうがいいのかと思えます。

あと、もう一つよろしいですか。これ、6ページの契約方式のところを、多分、平成24年度に契約しているので、ここは空白になっているという御説明であったかと思うんですけども、これだけ、この年度だけ見た方はそんなことはわからないので、もしそうであるならば、例えば、右のところとか、下に※をつけて説明書きをする等、対応をされたほうが良いのではないかとと思えます。

○布田補佐 先ほどの小笠原先生から御指摘のあった点なんですけれども、確か前回の御説明のときに、基盤グループのほうから説明させていただきましたけれども、単価というのは、どうしても民間に外注する場合と、内作で基盤グループの中でやる場合で、やはり、どうしてもその幅が出てしまうものですので、御指摘として当然その予算額をどうするかというのは、これまでの実績を踏まえて今後検討していくことになりますけれども、一応、審査を進める上では、クロスチェック関係の予算というのは必須だと思いますので、当然ある程度のものについては外注することも視野に入れて、少し予算のほうも検討していきたいというふうに考えてございます。

○小笠原委員 そうですね。ですから、そういうことが背景にあるということであれば、それも考慮に入れた上で、こういった単位当たりのコストというものをきちっとコントロールしているんだというか、そういう配慮があることを前提に予算化していただきたいという、そういう趣旨だと思いますけれども。

○中崎補佐 では、今の趣旨はもう少しわかりやすくなるように、文言のほうを調整をさせていただくということ。

ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、事業番号030の事業については、以上とさせていただきます。

続きまして、事業番号032番、原子力安全情報に係る基盤整備・分析評価事業の所見案でございます。

アウトカムの成果指標設定に無理があるのではないかとというのが一つ。

それから、二つ目に、収集した情報を整理・分析して得られた情報を活用することが事業の目的であるのだから、事業によって得られた情報がいかに活用されたのかという観点から、中長期的な（アウトカム）を見直すべきであるという御意見であろうかと思えます。これらについて何かコメント等ございましたら、よろしくお願いします。

お願いします。

○田淵委員 言い回しはまた後ほど調整させていただきますが、観点としてはアウトカム一つと。

あと、不用率のコメントって、どなたからも出ていませんでしたっけ。3ページ目の「不用率が大きい場合、その理由は妥当か」というところに、「27年度予算は、これまでの執行実績を踏まえた適切な額を計上したので、不用率は低下している」とあるんですけれども、この点に関しても、どなたが御覧になってもわかりやすい説明がここでは求めら

れると思いますので、その点についても、この所見に付記していただければと思います。

○中崎補佐 承知しました。それでは、文言のほうは後ほどの調整とさせていただきつつ、趣旨としては、不用率が大きい理由というのをもう少し丁寧に、よりわかりやすく記載すべきではないかということで、所見案のほうを追記させていただきたいと思います。

原課からは特にその点よろしいですか、追記すること。

○小笠原委員 恐らく、多分、この欄というのは、不用率が低下すれば、その説明責任を免責されるわけじゃないと思うんですね。不用率がやっぱり一定以上ある場合は、やっぱりその理由を明記していただくというのが趣旨だと思いますので、よろしくお願いします。

○中崎補佐 承知しました。

そのほかはございますでしょうか。

ありがとうございます。それでは、032番、以上で終了させていただきます。原課の方、ありがとうございました。

ありがとうございました。以上で全ての事業につきまして御意見をいただきました。また事務的に文言のほうを調整させていただきます。

それでは、次の議題でございますが、今後の予定のほうを御説明をさせていただきたいと思います。資料2でございます。

先日、原子力規制委員会において公開プロセスの講評を行っていただく予定を、8月3日ということでアナウンスさせていただきましたが、事情によりまして、8月24日にリスケさせていただきますということで、まず一つ目のアナウンスでございます。

それから、その後、8月末日でございますけれども、先生方からいただいた所見等々を踏まえまして、概算要求の準備を進めます。概算要求書は8月末日に提出するというのが財政法の要請でございますので、8月末日に要求書を提出すると。

本日いただいた御所見などを踏まえて、行政事業レビュー上に各事業担当課から改善策、あるいは、概算要求にどう反映したのかといったものを記載をした行政事業レビューシートを、最終公表するということになります。この際に、いただいたコメントを踏まえて、修正すべきところは、このタイミングで修正を一斉にするということになります。

9月の中旬に、そういった反映状況というものを一覧表にした表がございますが、これは事務的に作成をいたしまして、これもホームページ上で公開をしていく。

つまり8月末日は、単純に行政事業レビューシートにどう改善したのか、概算要求にどう反映したのかというのを、それぞれのレビューシートを公表するということございま

すが、9月上旬のこちらの反映状況表というのは、どんな御指摘があり、それに対して、どう改善したのか、反映したのかといったのを一覧表にしたものでございまして、これを9月上旬に公表するという手順でございます。

平成28年度、まさに今年度新規要求で立ち上がりました事業につきましては、そもそも前年の執行がございませんので、レビューの対象にはなってございませんけれども、これも29年度以降どう取り組む予定なのかというのを、レビューシートを作成をしまして、9月中旬ごろに公表していく、そんな予定でございます。

資料2の今後の予定については、以上でございます。

では、全体通じて何か御質問等ございましたら、お願いいたします。

お願いします。

○田淵委員 毎年なんですけれども、所見で指摘したものが最終版で修正されていた場合、そのままの所見のコメントですと合わなくなるんですね。その辺はしっかり整合性をとって整理をしていただきたいと思います。

○中崎補佐 そうですね。まさに、有識者の所見を踏まえ、こうした点を修正したとか、そういった形で改善点にしっかりと明記させていただくということで、ありがとうございます。

ほかに御質問等はございますでしょうか。

よろしゅうございますでしょうか。

それでは、本日、平成28年度行政事業レビューに係る第3回外部有識者会合をこれで終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

以上